

第 16 回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 6 月 13 日（木）

午後 6 時～午後 7 時 30 分

会場：須坂市生涯学習センター ホール

<次 第>

1 開会

2 挨拶

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

(1) 「第 15 回須坂新校再編実施計画懇話会」のまとめ

(2) 統合方法について

(3) 須坂新校施設整備事業基本計画について

① 配置計画・平面計画

② 仮設計画

③ 工事スケジュール

(4) 校名選考について（小諸新校の事例紹介）

(5) 視察報告（須坂東高校）

5 その他

<次回の予定>

第 17 回須坂新校再編実施計画懇話会

（日時）令和 6 年 8 月から 9 月を予定

（会場）調整中

（内容）校名選考について

6 閉会

須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○印 新規構成員

区分	氏名	所属等
1	三木 正夫	須坂市 市長
2	田中 洋友	小布施町 副町長
3	藤沢 敏和	高山村 副村長
4	勝山 幸則	須坂市教育委員会 教育長
5	春原 博	須坂商工会議所 専務理事
6	神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長
7	○ 西原 弘樹	株式会社サンジュニア 代表取締役社長
8	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長
9	霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長
10	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授
11	○ 大山 由香里	須坂東高等学校PTA 会長
12	長岡 孝典	須坂創成高等学校PTA 会長
13	高山 美穂	上高井郡市PTA連合会 副会長
14	坪井 扶司夫	上高井校長会 代表 (墨坂中)
15	上野 恵佐夫	上高井校長会 代表 (豊洲小)
16	坪井 俊文	長野地域振興局長
17	二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長
18	大宮 透	小布施町職員
19	小林 雅彦	須坂市教育委員会 前教育長 (座長)
20	安藤 駿	須坂東高等学校生徒会 会長
21	阿部 大輔	須坂東高等学校生徒会 副会長
22	河田 晴森	須坂創成高等学校生徒会 会長
23	石井 ひなの	須坂創成高等学校生徒会 副会長
24	山田 純子	須坂東高等学校長
25	山岸 暢	須坂東高等学校 教諭
26	羽山 功	須坂創成高等学校長
27	市村 宣幸	須坂創成高等学校 教諭

事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
中村 勝博	教頭・副事務局長	宮川 敏晃	教頭・事務局長	井出 敦	主幹指導主事
嶋田 順一		市村 宣幸		有坂 清明	主任指導主事 (須坂新校担当)
酒井 健次		柳澤 亘		土橋 邦彦	主任指導主事 (須坂新校副担当)
山岸 暢		春原 真			
酒井 知之		塚田 和弘			

第 15 回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和 6 年 4 月 26 日 (金) 18 時 00 分～19 時 30 分		
場所	須坂市シルキーホール 3 階 第 1 ホール		
出席 (敬称略)	田中 洋友, 勝山 幸則, 春原 博, 神戸 佳代, 久保 正直, 霜田 剛, 半田 志郎, 長岡 孝典, 高山 美穂, 上野 恵佐夫, 坪井 俊文, ニノ宮 邦彦, 大宮 透, 小林 雅彦, 安藤 駿, 阿部 大輔, 河田 晴森, 石井 ひなの, 山田 純子, 山岸 暢, 羽山 功, 市村 宣幸 (以上 22 名)		
欠席 (敬称略)	三木 正夫, 藤沢 敏和, 浅井 洋子, 米山 宏貴, 坪井 扶司夫	傍聴者	4 名
事務局	須坂東高校	中村教頭 (副事務局長), 嶋田教諭, 酒井 (健) 教諭, 山岸教諭, 酒井 (知) 教諭	
	須坂創成高校	宮川教頭 (事務局長), 市村教諭, 柳澤教諭, 春原教諭, 塚田教諭	
	県教育委員会	井出主幹指導主事, 土橋主任指導主事, 有坂主任指導主事, 小池主査, 依田主事	
当日資料	次第, 第 14 回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ (案), 須坂新校施設整備事業経過報告, 施設整備基本計画について, ワークショップ報告, 現時点の配置・平面計画, 仮設計画		

会議事項

- (1) 第 14 回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ (案) (2) 施設整備事業の経過報告
 (3) 施設整備基本計画について (4) ワークショップ報告 (5) 現時点の検討状況について (配置・平面計画)
 (6) 仮設計画について

構成員から出された主な意見(要旨)

冒頭で構成員の増員を県教委から提案

- ・須坂市教育長の退任により交代予定であった小林構成員について、構成員を増員して地域枠の構成員として依頼し、引き続き座長を務めていただくことを県教委より提案 →了承

会議事項について

(1) 第 14 回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ

資料 1 ページについて事務局 (県教委) から説明。質問、意見なし。

(2) 施設整備事業の経過報告

資料 2 ページについて事務局 (県教委) から説明。

【質疑】

- ・情報については須坂市教育委員会をとおして、小布施町、高山村の教育委員会にも流していくことが大事だと思うので対応をお願いしたい。

(3) 施設整備基本計画について

資料 3～4 ページについて、事務局 (県教委) から説明。質問、意見なし。

(4) ワークショップ報告

時間の関係で資料 5～8 ページを参照することで報告に代える。

(5) 現時点の検討状況について (配置・平面計画)

別添の資料について、設計チームから説明。

【質疑】 (→は設計チームからの回答)

- ・音楽室は授業や部活動での使用頻度が高いが、現状は場所が離れている上に、古くて冬場は寒いので新しくしてほしい。
→音楽室は既存棟を使いながら改修しようと考えている。音の関係で、単独で使うことが良いが、内装等を含めて新築と同等レベルで考えている。
- ・F L A (フレキシブルラーニングエリア) は 4 科融合の象徴的なスペースだと思う。
→単純な廊下ということではなく、居場所のようなものを作ろうと思っている。放課後に勉強をする、昼休みにお弁当を食べる、会話をするといったことを想定している。分野を超えた人たちの集まれる場所が F L A である。
- ・広いスペースに集まることを苦手としている多様な生徒が存在する。広い F L A をとるのではなく、そのスペースを違うことに使わせてもらいたいという学校の要望もあることをご理解いただきたい。

- ・ワークショップの意見を取り入れた点や、FLAはこういった要望に対応できる、といったものを説明していただかないとわかりにくい。みんながいいなと感じるようにアピールできる部分があれば腑に落ちると思う。
- ・歴史あるものが須坂東高校にはたくさんあるが、新校になりそれがなくなるのは悲しい。須坂東高校から新校にかわるときに、受け継げるものがあるのもいいと思う。

(6) 仮設計画について

別添の資料について、設計チームから説明

【質疑】

- ・須坂創成高校に入学した生徒の学びの保障という観点から、工期が伸びてしまうけれどもC案でお願いしたい。
- ・工事中であっても、普通科と専門学科と一緒に学べるような環境ができていることが一番である。
- ・どこに仮設校舎を建てるかも含めて既存の棟を使いながら仮設の面積を減らせるか算出している。より良い方向に行くように、設計チームの皆様のご協力をお願いしたい。
- ・生徒や学校の考えを優先してやって頂いたほうがいいと思う。
- ・県教委より

学校の側からC案を、という意見がだされ、他の構成員の方からA案、B案に対する賛同意見は出されなかったと考えている。C案にも工期、工事中の生徒動線、安全確保、工事関係車両の動線などの問題もあると認識している。持ち帰り、設計チームを含めて議論をしてより良いもので進められるように準備をしていきたい。

その他

【次回】第16回懇話会

日程：令和6年6月～7月の実施を予定

内容：施設整備基本計画について、校名選考について

小諸新校 校名募集の流れ(案)

高校再編推進室

長野県教育委員会

新校準備委員会

第1期高校再編時の校名選考の情報提供

選考の観点、選考方法の検討・原案作成

⑪懇話会(R4.5.16)

選考の観点、選考方法について意見交換

小諸新校「校名」募集要項(案)の作成

選考の観点、選考方法の再検討

⑫懇話会(R4.8.18)

小諸新校校名募集要項(案)について意見交換

小諸新校「校名」募集要項の決定

9月上旬～10月上旬

小諸新校「校名」募集の公募開始

応募された校名案の整理

懇話会構成員による【一次】投票

⑬懇話会(11月～12月)

公募結果の説明、校名案候補の一次選考

同名校、権利侵害等の調査

校名案候補 一次選考の整理

懇話会構成員による【二次】投票

⑭懇話会(1月～2月)

校名案候補の決定(最終選考)

同名校、権利侵害等の調査

再編対象校の校長から具申

R5年4月or5月

教育委員会定例会で校名案の決定

R7年11月

県議会11月定例会で正式決定

小諸新校 校名募集要項（案）【概要】

公募期間	1か月
選考の観点	①校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。 ② <small>小諸商業高等学校と小諸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、生徒たちが新たな学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像が表現されている。</small> ③「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・商業科・音楽科が融合した学校として分かりやすい校名である。 ④「地域と連携した本物の学びに触れる」ことを進める学校として、地域の願いや期待が表出されている校名であること。
選考方法	校名選考にあたっては選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。 〔一次選考〕 ・ <u>公募結果を参考に構成員による一次投票を行う。</u> ・ 公募及び一次投票の結果を参考に懇話会で校名案を <u>3案程度</u> にしぼる。 ・ 校名案の再検討を含め、構成員からの案を <u>二次投票の対象</u> に加える。 〔最終選考〕 ・ <u>二次投票の対象となった校名案候補に対し、商標権等の調査を行う。</u> ・ <u>商標権等の調査結果を踏まえ、構成員による二次投票を行う。</u> ・ <u>商標権等の調査及び二次投票の結果を参考に懇話会で校名案候補を選考する。</u>
公募方法	①期間：令和4年9月9日 ～ 令和4年10月8日 ②内容：校名案と理由 ③方法：応募資格の制限はなく、郵便、FAX、電子メール、事務室への持参

令和8年4月開校

小諸新高校校名募集

新高校の概要

所在地：長野県小諸市田町三丁目1-1
(現在の小諸商業高等学校の校地)
学科構成：普通科・商業科・音楽科

小諸新校「校名」募集要項

1 目的

長野県小諸市に令和8年4月に開校する小諸新校（小諸商業高等学校と小諸高等学校の統合校）について、長野県教育委員会が進める「新たな学校づくり」に多くの皆様の参画を求めることを目的に、新校の校名を募集します。

2 募集内容

新高校の校名案（「長野県〇〇高等学校」とする。）

なお、所定の応募用紙にその校名とした理由を付記してください。

3 応募の留意点

以下を参考として応募してください。

【新校の概要】

- (1) 学科構成：普通科・商業科・音楽科
- (2) めざす学校像：地域を舞台に多様性を重視しグローバルな視点で未来を創造する3科融合校
- (3) 所在地：長野県小諸市田町三丁目1-1（現在の小諸商業高等学校の校地）

【下線部をイメージして校名案を考えてください】

- ①小諸商業高等学校と小諸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、生徒たちが新たな学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像。
- ②「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・商業科・音楽科が融合した学校。
- ③「地域と連携した本物の学びに触れる」ことを進める学校として、地域の願いや期待が表出されている校名。

4 募集期間

令和4年9月9日（金）から令和4年10月8日（土）まで（郵送の場合、締め切り当日の消印有効）

5 応募資格

どなたでも応募できます。

6 応募方法

- (1) 郵送またはFAXによる応募（応募用紙を使用してください。）
- (2) はがきによる応募（下記の必要事項を記載してください。）
- (3) 電子メールによる応募（下記の必要事項を記載してください。）
件名を【小諸新校の校名応募】としてください。

【必要事項】

- ①新高校の校名案（ふりがなを記入してください。）
- ②その校名とした理由
- ③住所（都道府県・市町村）・電話番号・氏名（匿名不可）
(団体で応募される場合は、団体名と代表者氏名を記入してください。)

* 必要事項を充たさない応募は選定の対象外とします。

7 選定方法

小諸新校再編実施計画懇話会での検討を踏まえ、県教育委員会において決定します。

8 結果の公表

県教育委員会ホームページ等で決定された校名案と応募者氏名を公表する予定です。

他校視察 報告会

大槌に
通る
普通
科を
い
考
え
る
大槌
県を
い
考
え
る
手校
し
を
考
え
る
岩高
新
科

須坂東他校視察チーム

大槌高校概要

2学級（全校生徒156名）

R4年度より、文科省

「普通科改革支援事業」に指定。

令和6年度より、普通科から
地域探究科へ変更。

近隣の高校に生徒が流出している。

大槌高校が今後普通科としてどのような
方向性を目指すかについて検討





大槌高校概要

大槌高校魅力化構想会が設立
有識団体の1つである、「NPO法人
カタリバ」が高校、町と連携し、
魅力化の具体策を提示

- 1) 地域とともに魅力化ビジョンの策定
- 2) コーディネーターの設置
(カタリバより派遣、校内に常駐)
- 3) 探究をはじめとした、独自のカリキュラム

学校設定科目と探究活動で
高校の魅力化に尽力されている

「学校設定科目 地域みらい学」

国語 「ひよっこり表現島」
社会 「まちづくり探究」
英語 「Eパスポート」
数学 「くらしmath」
理科 「おおつちラボ」

教科ごとの特性を踏まえ、地域との連携
など横断的なつながりをしながら、課題
探究に取り組む授業になっている。
教科書は未使用、授業者が年間を通して
試行錯誤を行いながら指導計画をたてる

生徒会

なりたい生徒像やこうありたいという学校の姿などの理想を共有した、「大槌高校生徒宣言」という指針を生徒らが自作。その理想を実現するためにはどうしたらいいのかを考え、生徒たちが常に意識できるように、各クラスに大きく掲示。

生徒数減に伴い委員会も複数統合し、組織の最適化を図っている。

生徒会・部活動と並行して、「復興研究会」「はま研究会」（東京大学大気海洋研究所）への参画

大槌高校生徒宣言

私たち大槌高校生徒は震災後、この大槌高校で避難所運営を始め、復興研究会という組織を立ち上げ、大槌に貢献するよう努力しました。そこでは「自分で考え、自分で判断をすること」、「主体的に活動すること」の大切さを学びました。私たちはこのような精神を引き継ぎ、学校生活に生かしていきます。

私たちがすべきことは、生徒全員でなりたい生徒像やありたい学校の姿を問い続け、より良い学校生活を送ることができる理想の状態を共有することです。その理想の下で、どのように生活を送るべきかを一人一人が考え判断する力を高めていくことが重要です。私たちが学校生活を送る上で掲げて立つべき理想をここに宣言します。

- 一 私たちは夢を持っている生徒を目指します。このような生徒とは、目標があり、その目標に向かって頑張る生徒であり、地域の未来を考え、地域活性化に取り組む生徒です。
- 一 私たちは周りを明るくできる生徒を目指します。このような生徒とは、健康で活発であり、誰とでも仲良くなれる生徒です。
- 一 私たちは社会の一員として行動できる生徒を目指します。このような生徒とは、礼儀正しく、自分の行動に責任を持ちながら行動できる生徒です。
- 一 私たちは個人を尊重する学校を創ります。それは、生徒同士が相互の個性を理解し、お互いを大切にしよう学校です。
- 一 私たちは全員が充実感を持ち、毎日通いたくなる学校を創ります。それは、それぞれの目標にむかってお互いを高めあい、それぞれの「やってみよう」を応援しあえる学校です。

以上の学校を実現するために、よりよい集団生活をつくるにはどうあるべきかを私たちが積極的に考え、自ら決めたルールを守り、責任を持って行動します。私たちは自ら考え、自らを律し、よりよい大槌高校を創っていくことをここに宣言します。

生徒指導

校則検討委員会を有志で運営
ツープロックについて、
町内の企業にインタビュー
を行い、ツープロック禁止を改定した。

「大槌高校生徒宣言」が、ベースにあるため、
生徒の我儘のようなアイデアが出ることはない。

授業は基本的にTT
支援員が教室外へ出ていく生徒や、手詰まりな状態
の生徒へ声をかけることで、教員は教科指導に専念
できている。生徒もやるべきことが明確であり、
学習活動から漏れている者はひとりもない。



探究活動

コーディネーターの配置

(県と町の支援：カタリバ職員3名が常駐。町の予算
で2名、文科省の支援で1名)

コーディネーターが探究の授業を計画・実施し、
教職員はサポート的な立ち位置。

常駐し、日課の補助、探究の授業、放課後の学習支援
“大槌臨学舎”(含保護者対応、送迎等)をしているため、
こどもたちとの関係性が構築できている。

異動のある教員が探究の責任者をする、担当職員が
変わるたびに探究の授業も大きくかわってしまう。

地域とのコネクションや、授業のノウハウなどを、教員
個人ではなく学校に蓄積するには外部人材の活用は必須。
金と人。探究にはこれが必要である。

校内の様子

校内に生徒の活躍の様子を多数掲示

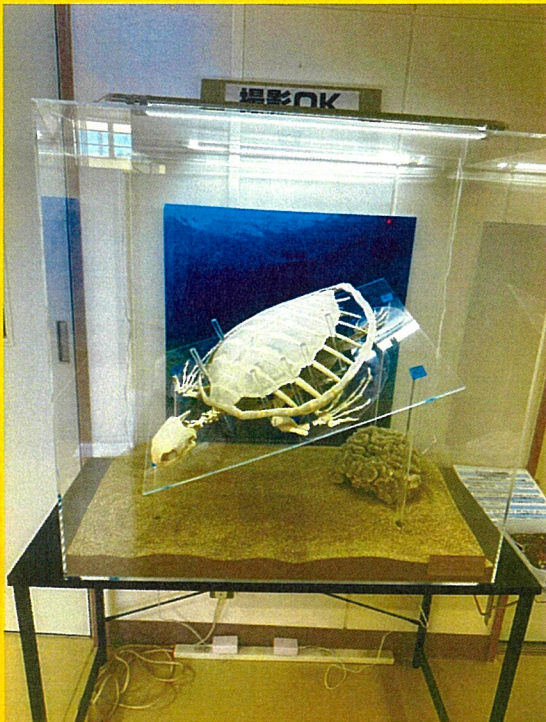


生徒昇降口
生徒の談話スペース
としても有効活用



校内の様子

生徒作成のカメの骨格標本
授業内外の取り組みが展示
されているため、下級生も
先輩の活動が目に見える環境

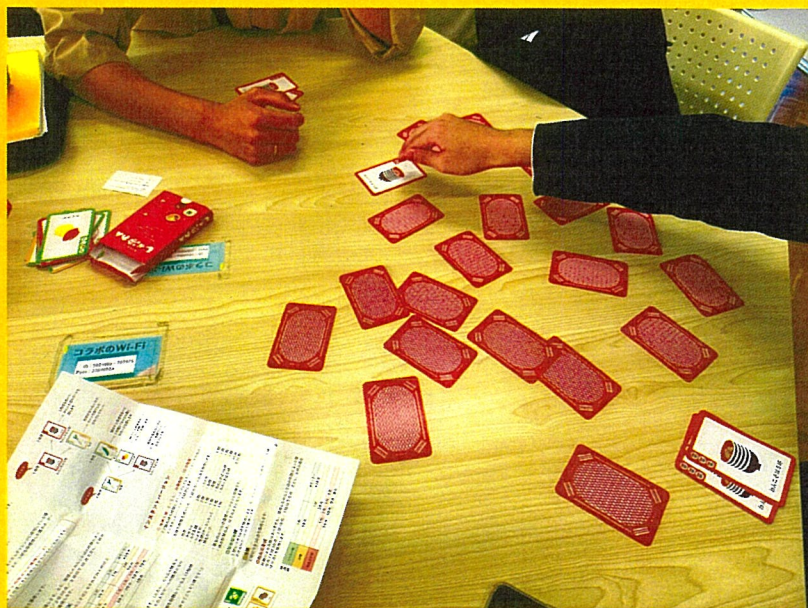


ひみラボ資料
活動の記録を校内に
多数掲示し、生徒の
意気を高めていた



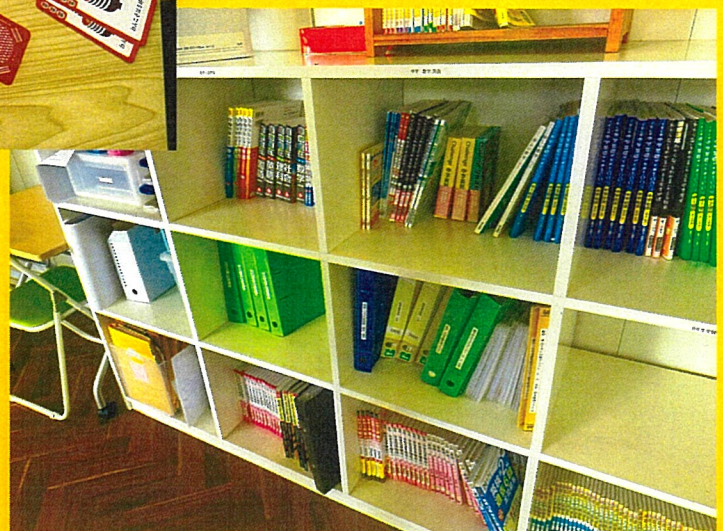


コラボスクール
NPOカタリバ運営の
フリースクールが
校内に設置されている



コラボスクール内で
交流する生徒の様子

各種参考書など
学習に必要なものも常備



探究に重きをおく 新しい普通科の 実現にむけて

人と金

人が必要。
熱意ある教員に
任せるのみでは
無理がある。
組織として新しい
普通科を構築
していくべき

制度の活用

「やらざるをえない」
状況にならないと
職員集団はなかなか
変わらない。
金のためにも制度の
活用は必須。
例：文科の指定など

地域連携

探究のフィールド
およびサポートを
する環境として
地域とのつながり
は必須となる。
一朝一夕には難しい
ため今から動くべき

本校で取り組める 短期的課題

生徒会

「生徒宣言」
のようなものを
取り入れるのは
有効に思える。
人手不足は委員会の
統合などで対応する。

生徒指導

「校則検討委員会」
を模倣してみる。
本校生徒にも校則に
疑問を抱く生徒多数。
自分たちで校則に
ついて再考させる
良い機会か。

探究活動

コーディネーターの
配置をすすめる。
マイプロ等の
外部コンテンツの
積極的な活用。
ネタを集積して
次年度に備える。

本校で取り組める 中・長期的課題

学校設定科目

魅力ある学校設定科目の開講をめざす。
教科横断的かつ探究的な授業が必要。
名ばかりの「探究」のような授業では意味がない

職員の士気

大槌高校職員は互いの授業で空きコマにTTとして協力するなどの職員の協力関係が非常に強固であった。
教員よ、熱意あれ

組織のあり方

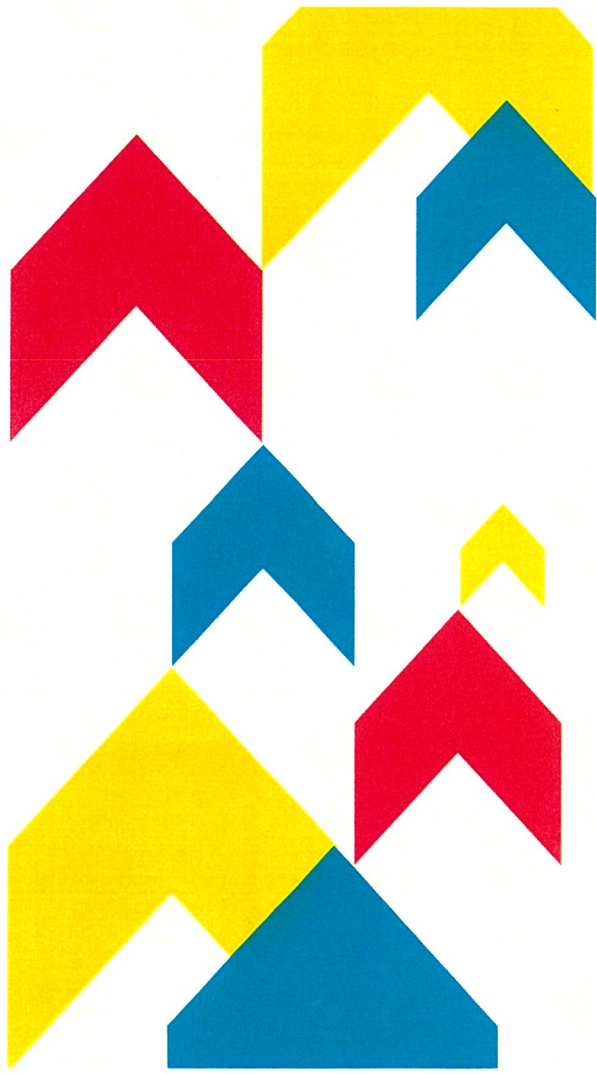
職員定数減を早めに考慮し、分掌や部活のあり方などを見直す必要。
業務の引継ぎやマニュアルが不十分なも公務員の悪いところ

生徒すべてのために

「震災があったから、変わった」
「大変な災害を乗り越えられた」という印象だけ残ることが残念
須坂東にはまだ5年ある。
いろいろな可能性を試し、今から始めてほしい

—大槌高校副校長

教員は誰もがこころに熱いものを持っていると信じています。
教員の熱意で学校は動くはずです。
教員よ、熱意あれ。



**thank
you!**

ご清聴ありがとう
ございました